

令和2年度第4回伊賀市男女共同参画審議会 議事概要

【開催日時】令和3年1月20日（水）午後2時30分～

【開催場所】ハイトピア伊賀4階 多目的室

1 開 会

司 会 皆さんこんにちは。2020（令和2）年度第4回伊賀市男女共同参画審議会を開会します。

皆様には、何かとご多用なところご出席いただきありがとうございます。

私は、審議会の議事に入るまで進行役を務めさせていただきます人権政策課の上島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この審議会は、伊賀市情報公開条例第24条に基づき、会議の公開を行いますとともに、審議会等の会議の公開に関する要綱第8条に基づく議事概要（会議記録）作成のため、録音をさせていただきますので、ご了承賜りたいと存じます。発言の時は、議長の指名によりマイクをお渡ししますので、必ずマイクを通してご発言ください。

本日の審議会は、「伊賀市男女共同参画推進条例」に基づき運営していますが、条例第14条第2項により、全委員13名のうち、10名の方にご出席いただいておりますので、本日の審議会は成立していることをご報告申し上げます。

それでは、会長からご挨拶をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

（朴会長 あいさつ）

朴会長 皆様、こんにちは。振り返ってみますと、とても暑い時期で7月15日でした。私たちにとっても伊賀市民にとっても、本当に重要になる伊賀市の男女共同参画に関わる、一番大事な基本計画を、どういう風に「伊賀市らしさ」を強調するのか、強みはさらに強く、弱みはどのように補っていくか、どう誇れるようなものにするか、皆様のお知恵を借りて、本日に至ります。今日は最終案ですので、皆様のお知恵をふり絞って、これを元に仕上げて、決定すれば答申に進めていくと。最後の最後まで、良いものに仕上げていこうと思っております。皆様のお知恵を貸してください。どうかよろしくお願いいたします。

司 会 ありがとうございました。続きまして、伊賀市人権生活環境部長の田中よりご挨拶を申し上げます。

（人権生活環境部長 あいさつ）

田中部長 改めまして、皆さんこんにちは。大変お忙しい中、またこのコロナ禍の中、日程を

調整していただき、ご参加賜わりましてありがとうございます。新型コロナウイルス問題で、1月8日に三重県も緊急警戒宣言を出したという事で、市も、2月7日まで感染防止強化期間として、取組をさせていただいております。なかなか会議を開きにくい状況ではございますが、この審議会におきましては、どうしてもご審議をいただかないとまとまらないということで、無理を申しましてこうしてお集まりいただいております。中間案からパブリックコメント、また委員さんをはじめ、いろんな方々からご意見をいただきまして、事務局で一定の修正をさせていただいたところです。ちょっと細かい所について、再度確認、ご意見賜わりまして、確定をしていきたいと考えております。なお、会議に関しましては、できるだけ短時間で終わるというのが、感染予防の観点からとも言われておりますので、スムーズな進行についてご協力をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

司 会 それでは、伊賀市男女共同参画推進条例第 14 条の規定により、朴会長に会議の議長をお願いしたいと思います。よろしく、お願いいたします。

朴会長 はい、今日の協議事項は、事項書に書かれている通りになりますが、一番大事な部分にかかりますので、順番に進めさせていただきます。

 では、(1)「第4次伊賀市男女共同参画基本計画 中間案に対するパブリックコメント及び審議委員からの意見及び回答」について、資料1・2に基づき事務局の方で進めていただき、あるいは、(2)の方の資料3、4、5も必要であれば、合わせて進めていただいてもかまいません。まず事務局から説明をいただき、その後委員の皆さんから質問や意見をいただこうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

事務局 まず最初に資料のご確認をお願いしたいと思います。

 ～資料1・2・3・4・5及び、別紙として答申文書の確認～

 それでは、第4次伊賀市男女共同参画基本計画最終案について、ご説明をさせていただきます。これまで書面開催となりましたが、7月・8月・9月・1月と計4回の推進会議、および本日の審議会も含め、計4回の審議会を開催させていただいております。内容としましては、計画の骨子・素案への担当課の事業内容を整理し、中間案から最終案を検討してまいりました。それをまとめたものが、お手元にある「第4次伊賀市男女共同参画基本計画最終案」です。

 まずは、資料1の「第4次伊賀市男女共同参画基本計画(中間案)に対するパブリックコメント意見及び回答について説明させていただきます。

 資料1をご覧ください。パブリックコメントについては、2020年11月25日から12月25日まで、市ホームページ、人権政策課、男女共同参画センター窓口、各支所

振興課、各地区市民センターにて募集をさせていただきました。その結果、1件ございました。内容は資料1のとおりです。

～資料1の内容、読み上げ～

続きまして、資料2でございます。「最終案」に関する審議会委員さんからのご意見及び回答です。順を追って説明させていただきます。

～資料2の内容、読み上げながら説明～

以上、資料1・2の説明とさせていただきます。

朴会長 どうでしょうか。関係しているものですので、庁内の意見の資料3も説明をお願いして…、資料4は本冊ですので、資料3まで一緒に説明をお願いいたします。

事務局 ではご指示をいただきましたので、中間案に対する庁内会議等からの意見及び提案による追加・変更点の資料3と資料4の最終案を、合わせてご覧いただきたいと思います。

 前回の審議会と市の総合政策会議等においていただいたご意見を反映させていただき、第4次計画の最終案として追加修正させていただきました。

～資料3の内容を読み上げ、資料4を確認しながら説明～

最後に、中間案では参考資料はつけていませんでしたので、参考資料について説明させていただきます。

1. SDGsの説明と取組、2. 策定経過、3. 伊賀市男女共同参画推進条例、4. 伊賀市男女共同参画審議会委員名簿、5. 伊賀市男女共同参画都市宣言、6. 男女共同参画社会基本法、7. 男女共同参画に関する国内外のあゆみの年表、8. 用語説明として、アルファベット順、並びに50音順、最後に法律の説明とさせていただきます。ご審議よろしくをお願いいたします。

 もう1つ、資料5の今後のスケジュールについても見ていただきたいと思います。合わせてご説明させていただきます。

～資料5のスケジュールを読み上げ～

朴会長 ありがとうございます。今、資料をもとに説明をいただきました。このことにつきまして、委員の皆様からの質問やご意見など承ります。いかがでしょうか。

委員 すみません。63 ページのところで教えてください。63 ページの3 段落目のところ、しかし、で始まっていると思います。「しかし」でいいのかなと思って。“47 名の男性リーダーの養成に取り組みました。しかし・・・否定する人の割合が増加し・・・” なので、否定する考え方が増えているんですね。「しかし」でいいのかなと思って。これは、良い方向ですよね。その次の途中のところの「しかし」はその生活とのギャップを受けての「しかし」なので、これでいいと思いますが、こちらの「しかし」は違うのではないかと思います。

事務局 そうですね。ありがとうございます。

委員 あと、もう1ヶ所よろしいでしょうか。66 ページです。取組の69 のところの概要に、“男女共同参画社会実現に向けて、父親が”とあります。ほかの文章に、“父親が”と使っているところがなくて、ここだけ“父親が”と使われているように読んだんですが、意図があって“父親が”としているのであればいいですが、“男性が”とするのか、それがちょっと気になりました。以上です。

事務局 ありがとうございます。そうですね、その他のところは皆、男性、女性という記述になっていると思います。“男性”と訂正させていただきます。ありがとうございます。

朴会長 ありがとうございます。

委員 私も同じところですが、今の69 番のところですね、“父親”というところを“男性”に変えるとしたらですね、その後にもまた“男性が”と出てきますので、このところはもうずっと文がつながっていると考えていいんですよね。

事務局 はい、そうです。

委員 はい、わかりました。

朴会長 ありがとうございました。その他にいかがでしょうか。

では、皆さんが考えている間に私の方から3点。ちょっと皆様のお知恵をお借りしたいと思います。資料1のパブコメです。「どこの市の計画？」「伊賀でしょ」というものを、どこのところで見るとかというパブコメの意見で、それをどこにわかりやすく入れるべきなのかと思いました。正直、この計画は非常に簡潔によくできていると思っている者からすると、ここにその“伊賀らしさ”というものを入れてやっていくのはどこかなと思っていたんですね。12 ページの一番下の基本理念の立場なのではないかと。「多様な主体が活躍できる男女共同参画社

会の実現」確かに、ここだけ切り出して考えたら、「どこの基本計画か？」となるかなと。そこで、皆様のお知恵をお借りしたいのですが、“伊賀”を入れるのが1つの選択肢かなと。入れるのだったら、どこに入れるのかということとして、頭から「伊賀の多様な主体が活躍できる男女共同参画社会の実現」とするのか、ちょっとクドイんじゃないというのであれば、「多様な主体が活躍できる伊賀の男女共同参画社会の実現」そういったような形で。伊賀というものを入れなくてもいいよというなら、それはそれでいいですし。もし、ちょっとわざとらしいけれど、伊賀というのがわかるように入れるのであれば、どの辺にいれるのがいいか、一緒に考えていただきたいのがまず1点。2点目は参考資料のところの76、77ページです。この部分について一緒に考えていただけたらと思います。30の具体的施策がある中で、17のSDGsがどの項目に当てはまるのかを示す早見表のようなもので、非常にわかりやすくいいなと思います。そこで皆様の意見を伺いたいのは、目標5の「ジェンダー平等を実現しよう」と目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」これは、30の項目すべてに関わるので、全部○がついています。私の方から提案ですが、伊賀というところが、行政的にこれから合併とかあるかもしれないけれど、今まで脈々と伝わっている住み続けられるまちづくり、私たちがあの世に行っても、ここで育てて大人になって、また子どもが育てられるという、そういった継続可能なまちづくりと考えると、目標11「住み続けられるまちづくり」も全部に当てはめてもいいのではないかと、アイコンを1つずつ増やしていく作業も、そんなに大変な作業ではなかったので、実は昨日やってみたんですが、1時間程度でできましたので提案しております。そういうことで、もし目標11を入れてもいいというのであるなら、ちょっと欲張って、目標4「質の高い教育をみんなに」というところで、最近は学校教育でもいろいろあります。生涯学習においてもいろいろあって、学んで成長していく、死ぬまで勉強していく、そういうところの部分で、子どもの時から当たり前でしょという教育をさせていく【伊賀】ということであれば、目標4も全部に当てはめていいかなと。となると、目標4、5、11、17を全部に○をつけてもいいかという提案が2点目です。3点目は、ちょっと考えなければいけないことですが、例えば27ページをご覧くださいと思います。数値目標が設定されています。この数値目標というものは、非常に厳しいものがありまして、野心的な数値を入れると、達成できなかった時に評価が落ちるし、達成しやすい数値を入れると、何のための数値目標なんだとなってしまうことから、慎重に考える必要があるのですが、その中で下から2番目、「伊賀市男女共同参画ネットワーク会議加入数」なんです。団体と個人両方合わせた今現在の数が56。団体49、個人が7。この基本計画は、少なくとも5年間になりますので、毎年1人ずつ増えるとしても、60よりは上なのではと思います。団体はなかなか増える見込みは厳しいかもというのであれば、個人でもいいよと言う部分で、関わってくださる方はいるのではないかと。そういうことから、56から60となっていますが、もう少し増やしてもいい

のではないかと思います。数値目標がいくつか出ていますが、今申し上げたように、数を考えたときに個人は非常に魅力があるので、例えば今ここにいらっしゃる方が、当然“やります”と言ってくれたら、それだけでも70くらいはあつという間にいくのではないかなという気がしますし。そういったところの数値目標をどう考えるか。その3点について、皆様のご意見を伺いたいなと思いました。私からの質問はここまでです。まず、事務局の意見を聞かせてください。

事務局 ありがとうございます。ではまず、最初のSDGsの17の目標のうち、当計画に関わるものを取り入れた、取り組みについてです。会長のおっしゃる通り、まず目標11「住み続けられるまちづくりを」というところにつきましては、すべての施策に関わってくるのかなと思っております。住みにくい町で男女共同参画社会の実現はあり得ないと考えますので、こちらの解釈不足で申し訳ありません。30項目すべてに当てはめたいと思います。さらに目標4につきましても、当然男女共同参画を実施するにあたり、啓発そして男女共同参画の目的に関わるところとの協議、小、中、高校、大人まで教育の部分でしっかりとすべての項目に対して啓発並びに教育、「教育」という言葉を使うとおこがましいかもしれませんが、「教育」という言葉を使っている目標4「質の高い教育をみんなに」ですので、みなさんに、政策の中で具体的施策を通じて教育の向上を目指した推進という形で、会長のご意見に賛同します。会長には、アイコンの配置のことまで考えてくださったということで、ありがとうございます。たぶん余白等も含め、入るのではないかと思います…。

朴会長 全然問題ありません。昨日、1時間で出来ることがわかりましたので。

事務局 では、そういう形の中で訂正させていただいてよろしいでしょうか。

各委員 はい。

事務局 すみません、訂正の部分がございます。76ページの基本目標Iの3地域社会での男女共同参画の促進の10番です。ここがまだ、「男性リーダー」となっております。「指導者の育成」ということで、口頭で申し訳ございませんが、訂正をお願いいたします。

それから、1点目の「伊賀らしさ」の部分ですね。パブリックコメントでも「伊賀らしさ」がないということで、ご意見をいただいております。会長から、12ページに記載の基本理念の中に組み入れてはどうかとご提案いただきました。今は、「多様な主体が活躍できる男女共同参画社会の実現」という事でございましたが、会長から「伊賀の多様な主体が活躍できる男女共同参画社会の実現」と「多様な主体が活躍できる伊賀の男女共同参画社会の実現」という伊賀を入れる位置につ

いて、2点のご提案です。

朴会長 この部分については、委員の皆さんのご意見をまず。なくてもいいよという意見もあるかもしれませんが、もっと素敵ないい方があるよという方がいらっしゃるかもしれないので、ちょっとお時間いただいて考えましょうか。いかがでしょうか。

おそらく、パブリックコメントの提案者は、いろんなところにキラキラっと光る伊賀らしさがあった方がいいのではないかと、そういう風に感じているのではないかと思います。そういった部分を考えていた時に、私個人的には、一から全体を全部ひっくり返してやれということではないのではないかと、という風に思いました。まず最初に一人歩きするのが、この基本理念だと思いますので、ちょっとクドいようですが、伊賀という言葉を入れてもいいかなと思っております。ぱっと最初に見たときに、「多様な主体が活躍できる」はどこにでもあたることなのか。伊賀を入れると、まあ大きく変えることなく、伊賀を出せるかなと思います。積極的な反対がないようでしたら、皆様、「伊賀」を入れることを念頭にちょっと考えていただいて、どちらに入れた方がいいのか、教えていただきたいと思います。

事務局 よろしいでしょうか。事務局から申し訳ございません。「伊賀」を最初にもってくるのと、男女共同参画社会の前にもってくるのでは、意味合いが違ってきます。最初にもってきた場合、伊賀市だけの多様な主体が活躍できるという解釈になってきますし、観光をメインに掲げる伊賀市であるならば、市外の方々にも対応できるように、「多様な主体が活躍できる伊賀市の男女共同参画社会の実現」と大きく伊賀市内外の方を含むことで、モーラ出来るのではないかと。解釈が2つありますので、どちらをメインにおいて基本理念に掲げるのかという事になってくると思います。パブリックコメントで書ききれていない部分ですが、「伊賀らしさ」というものを、どういう風に出していくかという事で、私どもも事務局として悩んでいたところもありまして、この5年間で伊賀市の課題等をもう一度きちんと見つけていって、その中で伊賀市はこういう状態であるから、伊賀市の将来を見据えて、こういう形で男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいくんだという気持ちも含めて、ちょっと反映しないとさせてもらったということをご了承していただきながら、今の朴会長からのご提案を皆様でご審議いただければありがたいなと思います。

朴会長 ありがとうございます。皆さんいかがでしょうか。

確かにそうですね。多様な主体、伊賀市内外、みんなが一緒になって、すごくいいですね。

委員 私個人的な意見としては、いろいろお話を聞かせてもらっていて、やっぱり真ん中にくるといふか、「伊賀市の男女共同参画社会」の方がすんなりいくかなといふか。基本理念の一番最初にも“「伊賀市男女共同参画推進条例」では、”という言葉で始まっているし、「伊賀市の」が真ん中に来る方が、流れとしてはいいのではないかと思います。自分の意見です。

朴会長 ありがとうございます。反対意見がないようでしたら、そういう風にさせていただきますでしょうか。

各委員 はい。

事務局 ありがとうございます。男女共同参画社会の前に「伊賀市の」を付け加え、最終案とさせていただきます。

27 ページのネットワーク会議加入数の数値の改定です。これは、当課が取り組むべき目標設定です。朴会長が言われるとおり、個人で増やせるのではない、団体については今少しづつですが、減少していることもあり、今後あまり加入団体を見込めない状況もありまして、個人があるのならば、その団体がなくなっても個人にお声がけをして、入れていくという方向性を持っていきたいなと感じました。56 から 60 という目標値でございますが、65 か 70 に・・・。

朴会長 皆さん、いかがです？もうちょっと増やしたいなと。

委員 すみません。先ほどおっしゃられたように、男女共同参画ネットワーク会議加入の団体は、年々減ってきている中、いきいき未来いがの開催にあたり、実行委員に入っていただく方の確保が難しいと、近年そういう状況が続いております。そういった中、実行委員の方としましてもかなり困っております、年に1度の「いきいき未来いが」を成功させたいという思いがありますが、なかなかそこに手上げしていただける実行委員が少ないです。その中で、26 ページにも書かれていますように、賛同・協賛していただける市内の企業さんが増えてきて、男性も加入していただけるようになってきて、うれしいことだと思っておりますが、若い人たちにも、若い間から興味を持っていただきたいということで、オープニングに高校生に参加していただき、盛り上げていこうとやっています。しかし、実行委員に参加していただける方が少ないというのがネックです。今、朴会長さんから“個人を増やすことができる”とおっしゃっていただいたのを聞いて、今まで団体の方ばかりを思っていたので、個人の方を増やしたら、実行委員になってくれる方も増えるのではと思いますので、今すごくいい意見をいただいたなと。これから個人会員をもっと増やしていただくことが大事なことになると思います。こういう意見が出たこと、すごくありがたいです。ぜひ、増やしていただ

きたいと思います。

朴会長 ありがとうございます。ちょっと話はそれますが、びっくりしていることがあります。63 ページ記載の小学校の放課後児童クラブの受け入れが、今 76%ですが、目標値が 100%となっていて、そうするとこれはいかがでしょうか。実行委員は大人も一緒にやるけど、子どもも一緒に入って、子どもは子どもの心を揺さぶることができるので、大人でなければ入れないという事ではなく、小学生でもみんなが一緒にやるという事が「伊賀らしさ」というところを表すものではないかということではないか。ありがたいことにこの 63 ページの指標、とにかく 100%にすると、ふつうは 95%です。私も 100%は怖くて書けません。それを 100%と言い切るので、もう 27 ページと 63 ページ、こういうところから「伊賀らしさ」が見えてきたという感じで、今ここで〇〇%！と言えないですが、幼稚園でも小学生でもやる気のある人は全部入って、やるぞと、そういった懐の深いところと、次世代を育てるということと一緒にやっていくということが「伊賀らしさ」と言えるところではないかと思いますので、63 ページの 100%と 27 ページをもう少し数字を増やすことは、お互い相乗効果で可能です。では、27 ページの目標、65 か 70 か具体的にどうしましょうか？事務局、何か案はありますか。

事務局 個人の関係で、今おっしゃられたとおり、小学生・中学生を含め、実行委員会も兼ね、ネットワークの会議に入れないかというご意見をいただきました。先ほど委員さんが言われたように、「いきいき未来いが」というフォーラムを毎年実施しており、高校生もこの 3 年間で参加していただいています。

朴会長 そうですか。では、小学生、中学生入ってもいいですね。

事務局 ええ、そうですね。ただ、時期的なもの、小中学生がどこまで関われるのかは、もうちょっときちんと検討しなければいけないと思いますが、ネットワーク会議の中へ小中学生が入ることは、私もいいのではないかと思います。そこで協力や啓発を含めて、今後の伊賀市を背負って立つ子どもたちに託すということ踏まえるならば、いいかなと。そこは入り方の問題で、学校教育課とも検討させていただきたいと思います。それから、ネットワーク会議の加入数です。個人につきまして、現実に会長は察していただいていますので、会長の支持に従います。70？80？

朴会長 今の流れから行きますと、70 はいけそうな気がしませんか。

委 員 70 ということは、個人が 14 人増えるという事ですね。・・・。

朴会長 例え、団体が減ったとしても、個人で・・・。

事務局 この部分につきましては、人権政策課、男女共同参画係だけでは、絶対無理な話ですので、当然ネットワークの会員の皆様方にもご協力いただきながら広めていってもらうという手法になると思いますので、70 でいかがですか。

委員 70…でも…、どうなんですかね、…あの…。

朴会長 65 はいけそうですか？

委員 60 はいけると思います。それ以上の65にするか70にするかというところですが、そのネットワーク会議をするにあたっての会議って、もし小、中学生、高校生を入れるとするなら、その時間帯もありますし、そういう会議に子どもさんに入ってもらおうというのもどうなのかなと……。今すぐ私も答えを出せない……。

事務局 会議だけを言っているのではなく、ネットワークから小学校中学校へ発信していくということ。

委員 すごくいいと思います。今、この「男女共同参画センター情報紙きらきら」なんかでも、いつも発信していただいています。が、「いきいき未来いが」がどういう事をしているのか未だにわからないという方が、たくさんいらっしゃいます。そんななかで、高校生がオープニングに参加していただくようになって、やっとちょっと若い人たちにも参加してもらえようになったという状態ですので、小学校中学校に発信していくというのが、すごく大事になってくると思いますので、すごくありがたくて、いいことだと思います。目標の数値は、5年間でどれくらい上げればいいのか・・・と思いますけれど。

委員 みんなが一緒にして、集まってやっていく・・・その会議ではなくて、例えば今おっしゃってくれたように、小学生や中学生の子が、男女共同参画でどういったことができるかという学習会というか、そこから始めていけば、子どもたちにも自分たちで前に動き出せる何かを、子どもの視点で出してもらえないかだと思いますし、一気にみんなが集まってではないので、数が多くてもいいのではないかと思います。

委員 いいですね。いきいき未来いがとか、子どもさんの映画とかも企画していただいていますし、そういうところでも子どもさんの意見をいただくとか、すごくいいことだと。大人とはまた違ったことを、子どもさんはいっぱい思っているの、そういう意見が出ることは、とてもいいことだと思います。

朴会長 わかりました。数値にこだわるということより、中身、質のところ、 “伊賀はシニアばかりじゃないんだ！子どもと一緒にやってくんだ！” と。例えば、目標数値は65とした場合、ここに★印、※印でもつけて、小学生もいるよ、中学生もいるよ、高校生もいるよ、大人もいるよという風にアピールしていくことで、他のところでは見られない “伊賀らしさ” が第4次計画に反映されればそれでいいのではないのでしょうか。数値は大事ですが、質的なところのものもちょっと入れましょう。★印なり、※印なりをつけて。

事務局 はい、入れ方につきましては、また会長さんと相談させていただきたいと思えます。

朴会長 えっ、私？

事務局 ええ、ご相談させていただきながら、まあ、数値はもう少し増やすという事で、65くらいを目安にして、ただ今思ったことは、直接小学校や中学校の子どもたちが関わることは不可能ですので、各学校さんの方でご協力いただきながら、ネットワーク会議に入っただけだと変わっていくのではないかなと。啓発も教育も含めて浸透していくのではないかなと、フツと思ったもので、まずは学校にあたってみて、校長会なり代表に・・・。

委員 ちょうど、昨日だったか、6年生がM字カーブのこと。

朴会長 え？小学校6年生が？

委員 そうです。勉強しているんです。ただ最近、MではなくてLになってきているんだよとか、そこでなんでかな？というような話し合いを担任と一緒にしています。その中で、ネットワークの方が入ってくることによって、なかなかこちらが持っていない、全体的なこととか、伊賀市の状況とかいろいろな情報とか、伊賀市の課題は何なのかとか、勉強させてもらいながらできるかなと。その行事に参加させてもらう事だけではなくて、学習の中へ入ってもらえる機会が持てたらいいかなと思っています。

朴会長 へえー。今ちょうど、20歳の三重大学生に、M字カーブ、L字カーブを教えてきたばかりです。それを小学6年生が習うんですか。

委員 ええ。6年生で、M字カーブがLになってきているんだよという話を。

朴会長 すごいですね。では、もうこれは、ぜひともはっきりしましょう。数値は大事

だけど、中の構成メンバーは本当に多様なんだよと。未来を背負っていく若者に子どもも入るんだということの、伊賀市の懐の深いところの特徴はここだという風に。あと数値は、低めにするか高めにするかは、事務局と一緒にちょっと考えて、さっそく皆様にこの辺の数値でやっていきます、というふうにさせていただくという事でよろしいでしょうか。

事務局　　すみません。数値につきましては、また会長さんと相談させてもらいながら、最終的に低くてごめんなさいとなるかもしれませんが、設定させていただいて、具体的な取組の中で、具体的施策9があります。女性のエンパワーメントなんです、取組19の「伊賀市男児共同参画ネットワーク会議の充実」という形の中で、ここでも取組の指標を設けさせていただいていますので、この中の概要に、とりあえず小学校中学校の子どもたちへのネットワークへの関わりという部分について、取組内容を学校で教育していくという形で追加させていただきます。

朴会長　　ありがとうございます。

委員　　私もネットワーク会議の一員となっています。ネットワーク会議の一団体の代表をさせてもらっていますが、男性が…。今、子どもさんのご意見は、本当に未来的でいいと思いますが、男性のそういった団体が、本当に少なくって…。初めは、「女性ネットワーク会議」から出発しましたので、それから「男女共同参画ネットワーク会議」になったので、たぶん男性が入りにくいとは思いますが、まだまだ、2つくらいでしょうか…。料理クラブとかは入ってくれていますが、地域で活躍されている男性の団体も本当に少ないので、男女共同にはなっていないような、女性中心で、なので、男性の団体がもっと入ってこられたら、もっと活性化するではないかとは思っています。

朴会長　　ありがとうございます。

事務局　　昨年度終了しました、男性リーダー養成講座ですが、3年間で47人の修了生が誕生し、自治協議会などに照会をかけて、“女性を支える男性”という立場の中で活躍をしていただいております。その方々が、このネットワーク会議の中に入っていて、実行委員としても2名入って一緒にやっておられています。やっとそこまできたという状況です。先ほど、委員さんのおっしゃられた話で、男性の団体は、発掘していくかないのではないかと考えておりますので、男女共同参画ネットワーク会議の皆さん方と共に、加入につなげていきたいと。これは事務局としてもずっと思っていることでして、男女共同参画に意思ある団体の発掘を、男女共同参画ネットワーク会議と共に発掘していきながら、会議の充実、加入に繋げていきたいと思っております。

朴会長 そしたら、数値はちょっと考えさせてください。それで、1つひらめきました。この最後の最終案の仕上げの部分、たぶん1ページ目に岡本市長の言葉が出てくると思います。岡本市長は前から、男性も女性もない同じリーダーというふうにおっしゃられているので、例えばそこに、伊賀市は子どもから大人まで、みんな一緒になってやっていく仕組みをみえる化しているんだ、第4次計画にそういったことを盛り込んでいるんだ、というような事を市長さんの言葉の中に入れていただいて、1ページから“伊賀らしさとは何ぞや”という部分をわからせる、そこを読んでいただいた方が、“今更女性だ男性だと考えることではないよね”というところで、頑張る企業もNPOも自治協議会も、伊賀はトップランナーなので、よい正のスパイダルをつくるんだということを、ぜひとも市長の心強い言葉で、あいさつ文を入れていただくという事で、部長と課長に宿題という感じをお願いしたいと思います。

 そういうふうになってくると、これがすごい生きてくると思います。部長、よろしいでしょうか。市長の言葉の中にぜひとも。

部 長 市長が言っていることですが、多様な主体というか、多様な立場の人が、人権が守られてその人らしく考えて行動できることを保証していくというのが1つと、特に性自認と性的指向の問題ですが、パートナーシップ宣誓制度をはじめとする、アライの取組の理解促進を一生懸命やろうということが、今の伊賀市長の特徴的な取組だと思います。ですので、そう言ったことは書けると思います。

朴会長 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

事務局 11月の選挙の公約の中でも、市長は男女の人権というかたちでうたっていたいておりますので、ここら辺も含めまして、一度部長と考えさせていただきます。

朴会長 そのほかに何かございますでしょうか。

委 員 今、伊賀らしさというお話を聞いてまして、なんとなくイメージはつかんだんですが、最終案の資料3をざっくり読ませていただきまして、こんなものなのかなと思ったんですが、伊賀らしさという話を聞いて気になったのが、例えば6ページの「少子高齢化の進展」のところ、まあ他のところもあるのですが、例えば9ページの「女性の社会参画の状況」のところもそうですが、過去の伊賀市との比較で、説明がされていますよね。例えば全国的にはどうなのか、あるいは三重県内での状況はどうなのか、というような注釈を入れていただいた方が説得力があるのかなと、そのうえで、伊賀の地域は現状ではこういう事です、というような。例えば9ページの説明のところ、最後の文章、「他のいずれの年度も14%

前後という低い水準で推移しています。」のところや、前のページのM字カーブのところとか、こういう風に改善してますという風な“伊賀らしさ”を日本全体とか、三重県の中でこうなんだという状況を、わかる範囲でいいと思いますが、少し付け加えていただくと、なおこれからの男女共同参画という意味合いが伊賀市に強く根付いていくのではないかと思いますので、述べさせていただきます。ありがとうございます。

朴会長 ちょうど今、県も今策定中ですが、参考資料として最新資料を提供できますよね、第3次計画（三重県）から。

委 員 えーそうですね。今月答申を考えているところですけど…。

朴会長 まだ、ちょっと早いですか？

委 員 そうですね、県が作成している第3次男女共同参画基本計画なんですけど、年度内の制定を目指しております。

朴会長 うちと同じ？

委 員 はい、そうですね。策定中という段階でございます。

朴会長 じゃあ、前のはちょっと古いですよ。

委 員 あの、県がした調査とか、すでに公表しているものであれば、活用していただけると思います。

朴会長 そうですね。ではそこはちょっと参考資料として、この伊賀市の参考資料はともいいものなんです。世界の動き、日本の動き、県の動きとあって。なので入れてみるのもいいかもしれませんが、ちょうど時期が同じなんです。県の第3次。2021年4月からはオープンですよ。

88ページからの男女共同参画に関する国内外のあゆみのところで、2021年に三重県の第3次計画があがるという事が明記してありますので、そこをちょっと見るような感じにしていきたいと思いますか？

そことあと1つ合わせて、今、気づいてるところですが、88、89ページのところ、伊賀市が何にもしてないように見えるので、斜線を全部取っていただいて、空欄みたいになってもいいから、そういう風にして、2004年の合併後にガンガンやっていくという、視覚的な効果で持ってってください。

事務局　　今の伊賀市の斜線につきましては、取らせていただきます。女性の社会参画の8ページ9ページのところですが、今から変えるとなるともう一度また審議会となるので、会長さんが言われたように、県の意識調査を反映するという事で、伊賀市と県との比較対象も含めて、調査結果等について抜粋して参考資料のあゆみのあとに、つけさせていただくということでご了承いただけますでしょうか。

委員　　わかる範囲で簡単でいいと思います。そのことによって伊賀市の状況がよくわかると思いますので。

事務局　　参考資料でとりあえず入れさせていただきたいと思います。ちょっと見比べるには不自由かもしれませんが、そういう形の中で対応させていただきたいと思います。今から、触るとなるとすべて触らないといけなくなり、ページ数も変わってくるので、申し訳ございません。

朴会長　　わかりました。委員がおっしゃるのは、今すぐここにという訳ではなく、比較ができるような資料提供、そういったものがあつたらいいんじゃないという。

委員　　ええ、まあその、次年度以降そういう考えを含めていただけたらと。今年度は難しければいいと思います、私の意見としては。

事務局　　これは5年間の計画ですもので、何とか対応させてもらいます。参考資料としても。

朴会長　　全く何にもないというわけではなくて、参考できる部分は引用、できないのであれば、その資料を明記することで、見ていただくという部分でもないよりはるかにいいと思います。ですので、必ず入れましょうね。

事務局　　県と伊賀市の比較でいいですよ。

朴会長　　そうです。お願いします。他に何かございませんか。
実は私も県の第3次に関わっていますし、課長も関わってくれています。
県からもこの審議会の委員さんとして来て来てくれますので、伊賀のこの基本計画、どういった印象をお持ちか、ちょっと教えていただけますか。

委員　　本当に私の個人的な思いとしましては、伊賀市さんはすごく人権とか男女共同参画とか性の多様性の関係とか、先進市でありまして、そういうところは県として非常に参考になる部分がありますので、そういう意味では、進んでいる部分もすごく多いかなと思っております。

朴会長 ありがとうございます。では、特段なければ、細かい文末整理、先ほどのしかしのような接続詞とか、大事なこともあります。こちらに委ねていただければありがたいです。そういった細かい所はあっても、抜本的に変えなければいけないようなところはないように思いますので、この後、最終案として岡本市長に答申していくということになるんですけど、最終案に関しましては事務局に委ねていただいて、これから答申に進めさせていただきますようによろしいでしょうか。

各委員 はい。

朴会長 ありがとうございます。それでは皆様のご協力のもと、協議事項1と2を終えさせていただきます。その他、何かございますでしょうか。

事務局 事務局からはございません。

朴会長 それでは残り1つですけれど、最終、少し修正はありますが、最終案の答申を進めていただけますでしょうか。お願いいたします。

事務局 それでは事項書3で、本来ならば答申は、日をわけてさせていただくのですが、時間的なこともあり、今回はこの中に組み込ませていただきました。事項3「第4次伊賀市男女共同参画基本計画（最終案）」答申について、私の方から進めさせていただきます。昨年7月15日に伊賀市男女共同参画条例第9条第3項の規定に基づきまして、伊賀市男女共同参画審議会に諮問をさせていただきました。第4次伊賀市男女共同参画基本計画につきまして、本日1月20日伊賀市に対しまして、その計画についてご答申いただきたいと思っております。伊賀市男女共同参画審議会会長 朴恵淑様より、人権生活環境部 田中部長へ答申をお願いいたします。

朴会長 本当に長い時間ではありましたが、本当に効率よく進めていただいてありがとうございます。会長、副会長から答申をさせていただきますので、市長によろしくお願いいたします。

2021（令和3）年1月20日

伊賀市長 岡 本 栄 様

伊賀市男女共同参画審議会 会長 朴恵淑

第4次伊賀市男女共同参画基本計画 答申について

令和2年7月15日付け、伊人政第3号で諮問のありました第4次伊賀市男女共同参画基本計画について、慎重に審議を重ねた結果、答申します。

よろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。では、伊賀市を代表いたしまして、人権政策環境部長田中より、審議会委員の皆さんへ感謝を込めてお礼の言葉をさせていただきます。

部 長 ただいま答申をいただきまして、本当に長い間、慎重にご審議いただきまして、いいものに仕上げていただいたと感謝を申し上げたいと思います。第2次伊賀市総合計画では、「勇気と覚悟が未来を創る『ひとが輝く地域が輝く』伊賀市」を将来像としていますが、少子高齢化といった人口構成の大きな変化やグローバル化による産業競争の激化、また、昨年からのコロナウィルス感染拡大に伴う「新たな生活様式」や経済社会の低迷も加わり、雇用の不安定化や社会保障の持続可能性など、様々な課題が生じています。そんななかで、ますます女性の活躍、男女ともに生きやすい社会の実現という事が、大切になってくると思います。人権的に言いますと、このコロナ禍ではありますが、人と人が結び付きは、しっかりと切ることなく強化していくと、そして、勇気と信頼をもった社会環境づくりというものを進めていく必要があると考えております。

本日答申をいただきましたので、この計画の内容を十分踏まえまして、今後5年間、市、あるいは地域、団体、関係のある方々と協力して、進めていきたいと考えております。今後、皆様方をはじめ、多くの方々にご支援を賜ってこそその推進だと思っておりますので、引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局 事務局からもお礼を申し上げます。長期にわたりましてご審議ありがとうございました。朴会長がおっしゃられたとおり、軽微な修正・追加等はございますが、会長さんと十分協議を積みながら、最終的な計画としていきたいと思っております。コロナの関係で時間もございません。本来でしたら、もう1回皆様にお集まりいただいて、最終の最終をご審議いただきたかったのですが、今年は選挙が控え、2月議会と繰り上げになりますので、今回で最終案の決定とさせていただきます。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

これで、終了とさせていただきます。ありがとうございました。

(会議終了)